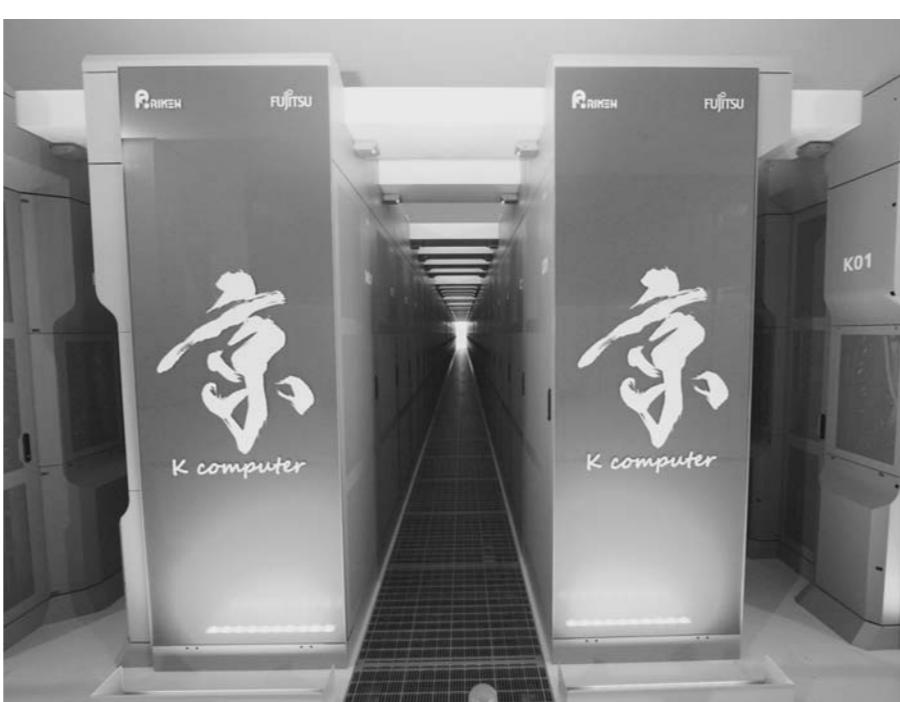
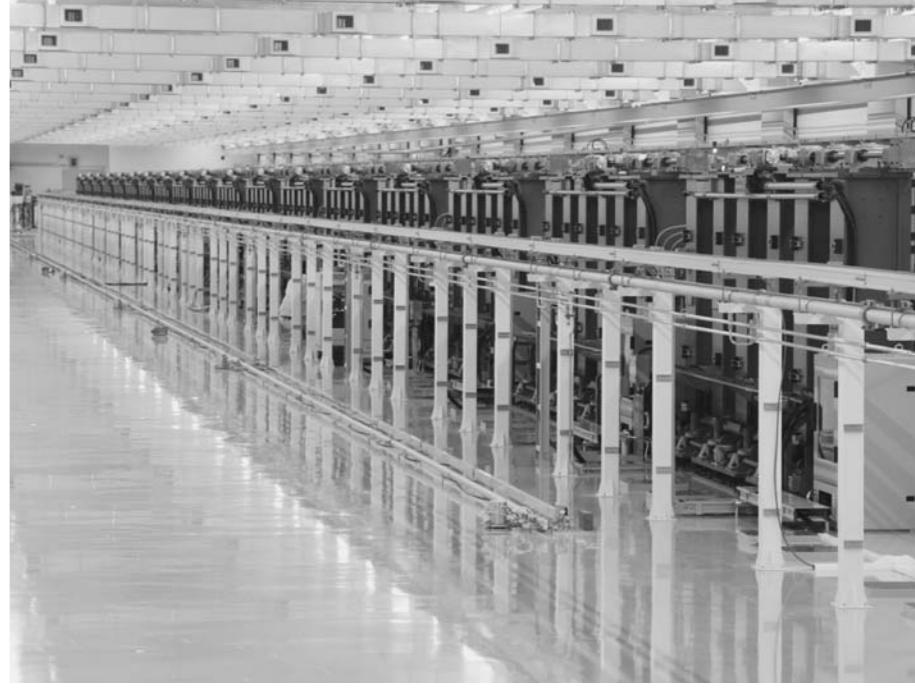


# 自然とともに生き抜く

## 関西・知恵のフィールドノート

(写真右上から時計回りに)日本初のX線自由電子レーザー(XFEL)施設、清水だけに育つバイカモ(滋賀県)、京都市の夢絆峡付近の風景、関西国際空港から飛び立つ旅客機、市民の努力で往時の美しさを取り戻した八幡堀(滋賀県近江八幡市)



### 関西産業特集

混迷する時代／共生、未来切り開く道しるべ

日本経済の力は「東高西低」と言われて久しい。ただ、関西の企業は「自然」を巧みに取り込んで新たに創造し、したかに生き抜いてきた。こうした関西の知恵は、決して古ではない。むしろ自信を失いつつある日本経済の指針ともなりうる。戦後から高度成長期にかけて、重厚長大産業は日本の産業を象徴する存在だった。この中で老舗といわれる関西のメーカーは、環境事業を手がける企業へと身を転じていった。こうした革新を続ける粘り強さと、しなやかな身のこなしは、まさに関西ならではだ。

今回の特集では、関西エリアに存在する、自然と生き抜く知恵を集め紹介する。

昨年、東日本を襲った大震災、そしてタイにおける大洪水。人知を超える自然の猛威を前に、我々の文明が微妙なバランスの上に成り立っていることをあらためて思い知られた。田畠や、政治・行政の混迷などもあって、先が予測しにくい状況は続いている。だからこそ、これから生き抜くための知恵が今、切に求められている。

右肩上がりの経済成長は、とうの昔に終わりを告げ、過去に描いた未来は修正せざるを得ない状況にあります。行き先を変えるために検討すべき事案は多い。しかし、そう簡単に解決できるものではない。

## 再利用! エコ・ファッション!!

## わざ ECO技、 クラボウ。

### 技の解説④

- 沖縄の植物「月桃」の茎を再利用して、綿との混紡で糸や生地に。
- 素材は清涼感があって発色がよく、夏のエコ・ファッショングに最適。
- 捨てていた茎を使い廃棄物低減、資源有効利用に役立っています。
- 沖縄の「かりゆしウェア」の素材として、地域産業の振興にも貢献。

クラボウ・織維事業部は、竹などの天然素材を解きほぐしてわた状にする「開織」技術も豊富に蓄積。沖縄の代表的植物「月桃」は葉に抗菌・防虫性があり、食品・化粧品・芳香剤などの商品化が進んでいますが、使うのは葉だけでは茎は廃棄されていました。クラボウは開織技術を月桃にも応用して、綿との混紡による糸・生地の商品化に成功。廃棄物の低減と資源の有効利用を両立。「かりゆしウェア」の素材として沖縄の産業振興にも貢献しています。

クラボウは、沖縄県工業連合会の登録商標です。

かりゆしは、(社)沖縄県工業連合会の登録商標です。

かりゆしは、(社